

令和3年度 水路技術奨励賞（第36回）

少壮の水路技術者の研究開発意欲を振興し、我が国の水路技術の進歩・発展に寄与することを目的として、昭和61年に「水路技術奨励賞」の基金を設け、毎年優れた業績を残した方にこの賞を贈っています。

今年度は令和4年1月27日に水路技術奨励賞選考委員会幹事会、令和4年3月3日に水路技術奨励賞選考委員会において受賞者を選考し、2件8名の方に水路技術奨励賞をお贈り致しました。

受賞者は以下のとおりです。（敬称略）

1. CUBE水深導入に向けた技術開発

受賞者：

海上保安庁海洋情報部

技術・国際課

栗田 洋和

〃

住吉 昌直

第一管区海上保安本部海洋情報部

友久 武司

第七管区海上保安本部海洋情報部

安原 徹

内 容：

マルチビーム測深で得られた大容量のデータを迅速・効率的に且つ客観的な処理を行うために、CUBEアルゴリズムを用いたデータ処理及び測深方法について技術的検討を行い、マニュアルの整備とともに我が国の水路測量に導入するための関係規則の改正に尽力した。

2. CUBE水深導入に向けた技術開発

受賞者：

海上保安庁海洋情報部

沿岸調査課

渡邊 俊一

〃

中村 優斗

技術・国際課

石川 直史

東京大学生産技術研究所

横田 裕輔

内 容：

高精度に音速度構造と海底局位置を一括推定する解析ソフト(GARPOS)を開発して、解析時間を従来のソフトに比べて1/100近くまで短縮することを可能にし、海底地殻変動観測の解析の効率化・高精度化に大いに貢献した。

さらに、開発した GARPOS を用いて東北地方の海底地殻変動観測データを解析して、東北地方太平洋沖地震後の余効変動を検出した。その結果から、地震時に福島沖の海溝近くで大きな断層すべりが存在したことを示唆する証拠を示した。

※ 今年度の表彰式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、取止めました。